

平成29年11月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,456	8,833	4,493	4,340	17	13
2 千 石	4,017	6,888	3,461	3,427	12	15
3 内 山	5,463	7,662	4,071	3,591	24	26
4 大 和	3,395	6,715	3,322	3,393	△ 2	12
5 上 野	7,255	15,380	7,668	7,712	11	33
6 高 見	7,273	13,471	6,446	7,025	21	22
7 春 岡	6,824	10,932	5,797	5,135	42	48
8 田 代	11,454	21,937	10,596	11,341	23	48
9 東 山	10,325	19,516	9,615	9,901	6	11
10 見 付	4,446	8,350	4,193	4,157	31	28
11 星 ケ 丘	3,528	6,938	3,152	3,786	24	34
12 自 由 ケ 丘	3,554	7,313	3,335	3,978	6	△ 1
13 富 士 見 台	6,463	15,513	7,175	8,338	5	29
14 宮 根	3,850	8,395	4,012	4,383	3	△ 4
15 千 代 田 橋	3,629	8,533	4,007	4,526	34	35
千 種 区 計	86,932	166,376	81,343	85,033	257	349
H28.11.1	86,075	165,561	80,942	84,619	160	118
対 前 年 比	857	815	401	414	97	231
名 古 屋 市	1,089,774	2,315,855	1,144,000	1,171,855	1,599	1,730
愛 知 県 (H29.10.1)	3,152,075	7,526,911	3,765,921	3,760,990	1,939	753

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	123	129	△ 6	1,216	861	355

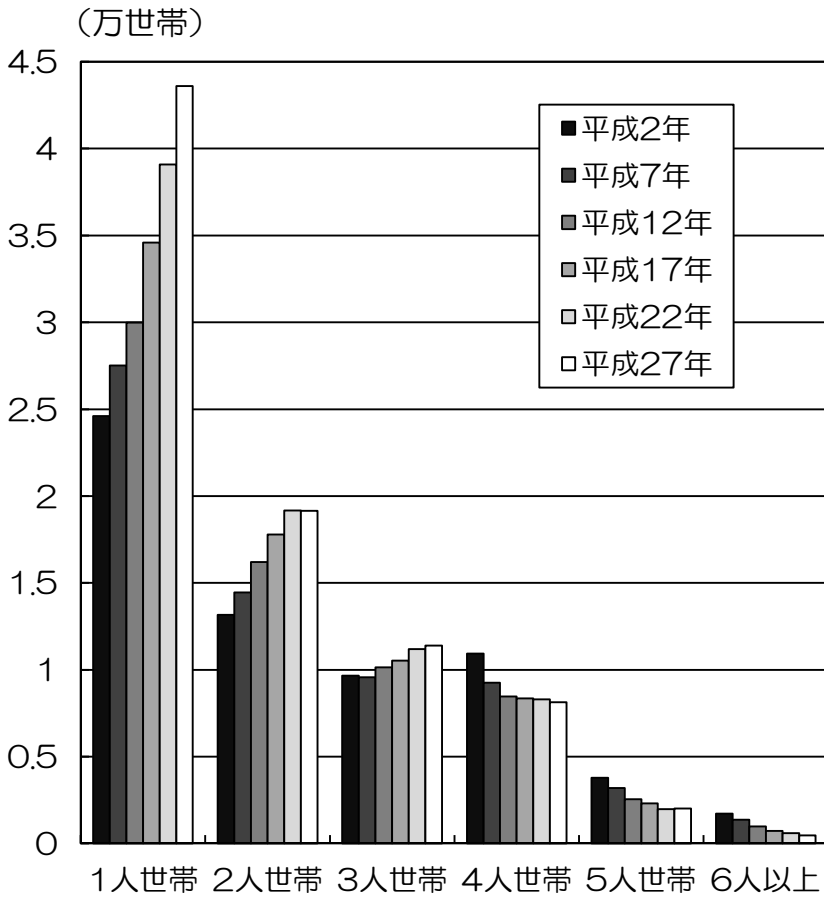
【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の世帯人員別一般世帯数の割合

図 1:千種区の世帯人員別一般世帯数の推移 (各年 10 月 1 日現在)

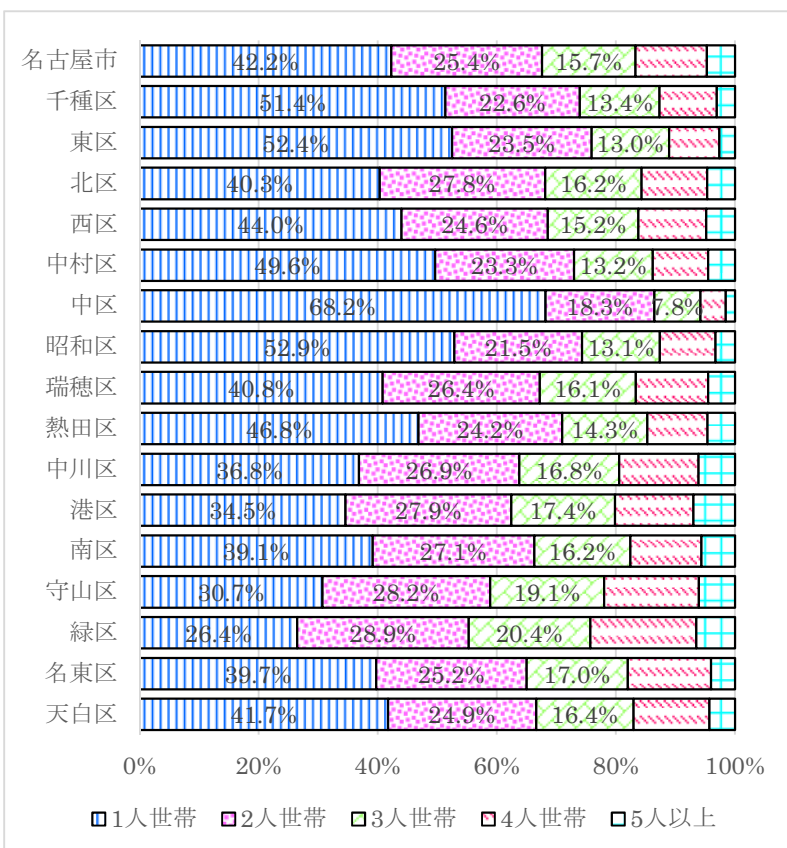


今回は平成 27 年国勢調査結果に基づいて、世帯人員別の世帯数を見ていきます。

千種区の平成 27 年 10 月現在の一般世帯の世帯数を世帯人員別に見ると、1 人世帯(単独世帯)が過半数の 43,602 世帯(51.4%)と最も多く、次いで 2 人世帯の 19,155 世帯(22.6%)、3 人世帯の 11,400 世帯(13.43%)となっており、世帯人員が 3 人以下の世帯が全体の8割以上を占めています。

これを平成 22 年と比較すると、1 人世帯は 4,512 世帯増と急激に増え、全体に占める割合が 48.7%から 51.4%へと過半数を超える一方、2 人世帯と 3 人世帯はほぼ横ばい、4 人以上の世帯は減少傾向にあります。

図 2: 各区の世帯人員別一般世帯数の割合(平成 27 年 10 月 1 日現在)



一般世帯数の世帯人員別の割合を各区と比較すると、1 人世帯の割合は、中区(68.2%)、昭和区(52.9%)、東区(52.4%)に次いで 4 番目に高い割合となっており、名古屋市全体の平均値(42.2%)より高い値となっています。

逆に 1 人世帯の割合が低い区としては、緑区(26.4%)、守山区(30.7%)、港区(34.5%)等があげられ、これらの区は 2 人以上世帯の割合が名古屋市全体の平均より高く、一世帯あたりの人員数が多くなっていることが読み取れます。